

## インターバンクの声（2017年1月18日）

注目されたメイ英首相の欧州連合（EU）離脱に関する演説は、英金融会社のアナリストが表現していたような英国の『断崖絶壁』の危機に直ちにつながる内容とはならず、週初には1.20ドル割れまで下落が進んでいたポンドは、今年のこれまでの高値1.24ドル台前半に迫る水準まで急反発した。

ドル円も英国のEU離脱懸念に絡んだポンドの下落につれて円買い・ドル売りが進んでいたことを考えれば、メイ英首相の発言を境にリスク回避姿勢が弱まって円売りに転じて良さそうなものだったが、ウォールストリート・ジャーナル紙が伝えたトランプ発言がドルの上値を抑えてしまった。

記事はトランプ次期大統領が、米企業は「中国と競争できない。なぜならドルが強く、われわれは死にそうな目にあっている」と、人民元の対ドル水準に不快感を表明したと伝えた。先週あたりから度々トランプ氏がドル高を懸念しているのではとの噂や未確認情報が伝わっていたが、昨日は少なくとも人民元安には不満があるのは明白になった。

円安には不満がないのではとも思いたくなるが、それは虫のいい捉え方だろう。

いよいよ明後日は米大統領就任式だが、足元は間違いなくドルの上値が重い。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。